

第218号

平成24年 8月10日

病院だより



胆石・ヘルニア外来のご案内

Noriaki Kameyama

亀山 哲章

たんぱく尿と血尿

Kyouji Chiba

千葉 恭司

医事課のご紹介

Kuri Ooshima

大島 くり

国際親善総合病院

URL <http://shinzen.jp>

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1
TEL 045 (813) 0221 (代表)
FAX 045 (813) 7419 (総務課)

国際親善総合病院看護部
モバイルサイト



胆石・ヘルニア外来のご案内

平成24年7月から、毎週火曜日の午後「胆石・ヘルニア外来」を外科外来にて始めました。当院では毎年120～150人の患者さんが、胆石症及びソケイヘルニアのために手術を受けられています。この2疾患に対する手術件数は、外科手術件数の4割強を占めています。

当院で外科治療を受けられる方には、少しでも負担が少なく傷も小さな治療を提供したいと考え、胆石症に対しては、平成21年5月より、ソケイヘルニアに対しては、平成22年2月より単孔式腹腔鏡手術を導入しております。

単孔式腹腔鏡手術は、一つの傷から手術を行う手術であり、一つの傷をお臍に置くことによって、術後ほとんど傷が見えなくなるものです。当院では、胆嚢疾患、ソケイヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア、虫垂炎、大腸癌、胃癌など多くの疾患に対して単孔式腹腔鏡手術を行っています。その中でも、胆石、ソケイヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患に対しては、積極的に単孔式腹腔鏡手術を行っています。胆石では、200例、ソケイヘルニアでは80例を超える単孔式腹腔鏡手術件数を行っています。

ソケイヘルニアに対する手術は、TAPP（腹腔内到達法）といわれる術式を行っています。単孔式腹腔鏡手術にて行うTAPPは、腹膜閉鎖の手技が煩雑となりますが、独自の工夫をすることによって手技の難易度を下げること成功しています。また通常はメッシュ（補強材）の固定が必要となりますが、私たちはself-gripping meshを使用することによって、メッシュの固定を必要としない手技を確立しました。この手術手技は、内視鏡外科学会雑誌2012年1月号に掲載されています。また2012年ヨーロッパ内視鏡外科学会にて、EURO-TANKOというレクチャーコースにて講演する機会を頂きました。

胆石症やソケイヘルニアを患っているすべての患者さんが手術を希望するわけではありません。この「胆石・ヘルニア外来」では、病気について詳しく、丁寧に説明させて頂き、患者さん一人ひとりに合わせた治療を提示し、手術が必要な患者さんにはより傷の目立たない、ダメージの少ない単孔式腹腔鏡手術を提供していきたいと思っています。

胆石やソケイヘルニア、腹壁癒痕ヘルニアを患っている患者さん、より傷が目立たない手術を希望される患者さんは当外来へお越しください。

たんぱく尿と血尿

～日本人に多いIgA腎症を中心に～

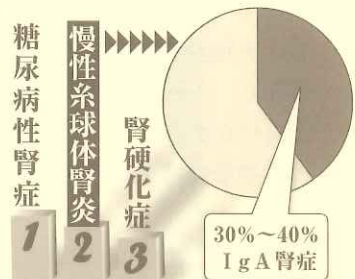
2010年現在、透析療法を行なっている患者は約30万人であり、毎年増加しています。透析導入原疾患の第1位は糖尿病性腎症で、第2位は慢性糸球体腎炎、第3位は腎硬化症となっています。透析患者を増加させないためにも、CKD（慢性腎不全）の対策が重要です。

CKDの早期発見に、検尿（尿蛋白・尿潜血）は簡便で有効な方法です。特に臨床症状の乏しい早期のCKDでは検尿だけが発見の手段となります。我が国の健診で発見される慢性糸球体腎炎は、早期にステロイドや免疫抑制薬などによる積極的治療をすることで、寛解導入できる場合も多いです。そのため、腎機能が低下しない早期の段階で発見し、治療することが極めて重要です。

慢性糸球体腎炎の中で30～40%を占めるのはIgA腎症です。10歳台での発症が最も多く、約70%が学校や職場の健診での尿所見異常（尿蛋白・尿潜血）で発見されます。20年以内に約40%が血液透析に至るとされています。

治療法として、生活習慣の是正、食事療法、薬物治療があります。薬物療法は、経口副腎皮質ステロイド療法、ステロイドパルス療法、扁桃摘出術（扁桃摘）＋ステロイドパルス療法、降圧薬、免疫抑制薬、抗血小板薬、抗凝固薬などがあります。自覚症状がないため、ステロイド療法を希望されない方が多いですが、長期的な腎機能保護効果が明らかになってきています。腎機能が低下すると、ステロイド療法が無効となる傾向は強くなってきます。長期的なことを考え、治療されることが重要と考えます。

腎臓・高血圧内科 千葉 恭司



このテーマは

平成24年9月14日(金) 15:00から約1時間

の健康懇話会にて講演予定です。

（入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。）

医事課のご紹介

皆さまから「医事課って何をしているところですか？」と尋ねられたことがありました。この場をお借りして医事課の業務を知っていただけたらと思います。

1階のフロアにある総合受付カウンターには、新患の登録、保険の変更登録等を行う新患受付、診察後の診療行為の計算をして請求書と明細書を発行する計算窓口、診療費の精算と院外処方箋と予約票等をお渡ししている会計窓口があります。カウンター内のスタッフ全員が全ての業務が行えることを目標にしています。

総合受付カウンターに隣接して、入院から退院までのすべての手続き、入院費の精算を行う入退院受付があります。入院患者さんの診療費の請求書の発行は、1階の事務所内で入院担当のスタッフが業務にあたっています。医療費の請求方法は、治療費の一部負担



総合カウンター

金を患者さんからいただき、残りの分を毎月1回保険者（保険証を発行している機関）に請求します。これがレセプト（診療報酬）請求です。

今年4月に診療報酬の改定がありました（概ね2年に1回の改定）。その際、講習会や勉強会に参加し、診療報酬改訂後も正確に請求できるよう医事課全員が学習しました。

各科外来では、医師事務作業補助者（ドクタークラーク）が医師の事務的部分のサポートを行っています。そのほかに、救急外来受付業務と人間ドック・健康診断事務も医事課の業務です。患者さんに安心して受診できる病院だと感じていただけるよう医事課総勢37名で「国際親善総合病院の顔」として強い自覚を持ち励んでいきたいと思っています。

ご意見、ご質問等ございましたらいつでもお申し付けください。ご満足いただけるよう明るい笑顔でお答えする所存です。

医事課主任 大島 くり